

## 市民会館ワークショップ 実施結果（各班発表の概要）

### ○第1回（9月7日実施）

#### ◎議論1：藤沢の文化とは？～20年後の藤沢文化はどうあるべきか～

- 1班
- ・子どもたちが文化や自然に触れる場や機会が少なくなってきた。本物に触れたり、生で体験できる場が増えるとよい。
  - ・外国人やその子どもたちも含めて様々な体験を共有できるような文化があるといい。
- 2班
- ・AI等のIT技術が発達していく中で、人間味があり、人と人の行き来や、世代間の交流がある文化を作っていきたい。
  - ・伝統文化や演劇・音楽などに今携わっている人達だけでなく、新しい世代をうまく組み込んでいけるような文化が育ってほしい。
- 3班
- ・ほかの町からもうらやましがられる会館があったらいい。
  - ・昔ながらの文化があるところからみると、「文化がない」ように思う。文化を持っているところから藤沢に取り込んでいくことも必要。

#### ◎議論2：市民会館のあり方について

- 1班
- 市民が参加できる施設
    - ・市民が当事者意識を持ってその場を大切にしたいと思ったり、そこでチャレンジができたりする場所。
    - ・運営に関しても市民が関わっていけるところがあるとよい。
  - 安全安心な場
    - ・市民が自由に集まれる場、居場所としての場があるとよい。あそこに行ったら何かあるかもというワクワク感や外に出ようと思えるような安全・安心の場が必要。
  - 使いやすい施設
    - ・アプローチが素敵であったり、駅からホールまでのつながりがよかったり、変にモダン・奇をてらった外観である必要はないが、使う人の視点で使いたいと思えるものがよい。

- 2班 ●誰もが訪れることができる市民会館
- ・広場を含めた施設が公園的であったり、印象的な建物であったりする必要はある。イベントがなくても家族や友人と過ごせるような場所。
  - ・誰もが集える、フリーで気軽に利用できる場所。
  - ・学習室的機能があれば学生等も日常的に市民会館に集えるのではないか。

- 3班 ●多世代交流
- ・世代間交流や文化事業を通して発展させる。
  - ・誰もが立ち寄る交差点であってほしい。
- 立地に関すること
- ・今の市民会館の場所でいいのか、駅前の立地がのぞましいのではないか。
- 機能
- ・博物館機能があるとよい。

★★★ 意見まとめ ★★★

◎ 藤沢の文化とは？20年後どうあるべきか？

- ・様々な年代や様々な国の人々が、平和の上に成り立つ文化芸術に触れる機会や体験する機会を提供でき、また、他からの文化流入や新たな文化を受け入れることができる「柔軟な文化」が藤沢には必要である。

◎ 市民会館のあり方について

- ・高齢者、障がいがある方、外国籍の方など、様々な人々が利用できる「利用者にやさしい施設」
- ・文化芸術を中心に、人と人との交流がうまれる「文化と人の交差点」
- ・子どもや若者が集い、学べる「人材の育成のための拠点」
- ・公共性を持った施設運営による「誰もが利用できる施設」